



Title	出版物 RECNA ポリシーペーパー
Author(s)	
Citation	長崎大学核兵器廃絶研究センター年報, 2017, pp.60-63; 2018
Issue Date	2018-04-30
URL	http://hdl.handle.net/10069/38399
Right	

This document is downloaded at: 2019-04-26T10:05:43Z

<出版物>

RECNA ポリシーペーパー

核兵器禁止条約採択の 意義と課題

2017年8月 REC-PP-06

鈴木 達治郎	センター長・教授
黒澤 満	顧問
広瀬 訓	副センター長・教授
中村 桂子	准教授
吉田 文彦	副センター長・教授
太田 昌克	客員教授
梅林 宏道	客員教授
桐谷 多恵子	客員研究員
朝長 万左男	客員教授

※本稿で述べている見解は、筆者個人のものであり、筆者が属する組織を代表するものではありません。

"We all feel very emotional today. We feel that we are responding to the hopes and to the dreams of present and future generations -- that we undertake our responsibility as a generation to do whatever is in our hands to achieve and to move the world towards the dream of a world free of nuclear weapons,"

- *Elayne Whyte Gomez, President of the UN Negotiation on Treaty to Prohibit Nuclear Weapon, July 7, 2017*

「今日、私たちはとても感動しています。私たちは、現世代、そして将来世代の希望と夢に答えていると感じています—核兵器のない世界を実現するという夢に向かって、今私たち世代ができることはすべて行うという、責任を果たしていると感じています。」

- E. ホワイト・ゴメス、国連核兵器禁止条約交渉会議議長、2017年7月7日。

核兵器禁止条約採択の意義と課題

はじめに

2017年7月7日はまさに、核兵器廃絶を願うすべての人々にとって、歓迎すべき歴史的な一日となった。RECNAでは、核兵器禁止条約採択をうけて、その歴史的意義と今後の課題について、7月8日付で簡単な見解を発表した¹。しかし、本条約採択の意義と今後の課題については、より詳細な分析が必要と判断し、RECNAでは教授陣全員で、それぞれの専門分野から、この意義と課題について早急にまとめることとした。専門家のみならず、一般の読者にもわかりやすく読めるよう、各著者にはお願いした。

核兵器禁止条約の今後を考えるうえで、少しでもお役に立てれば幸いである。

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）
センター長・教授 鈴木 達治郎

¹ RECNA 見解、「核兵器禁止条約案採択にあたって」、2017年7月8日、
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/no8-jp>

目 次

はじめに	・・・・・・・・・・・・・・・・	鈴木 達治郎
要 旨	・・・・・・・・・・・・・・・・	鈴木 達治郎 P. 1
1. 核兵器禁止条約の内容と評価	・・・・・・・・	黒澤 満 P. 7
2. 核不拡散条約や他の核軍縮条約との関係	・・	広瀬 訓 P. 12
3. なぜ歴史的な条約は採択されたのか ～非核保有国における意識の変容から～	・・・・・・・・	中村 桂子 P. 18
4. 核兵器国から見た核兵器禁止条約	・・・	吉田 文彦 P. 26
5. 「対抗的命題」を内包一日米同盟と核兵器禁止条約		太田 昌克 P. 32
6. 条約の加盟促進 (= 普遍化) について	・・・	梅林 宏道 P. 37
7. 広島・長崎からの視点——二人の被爆者へのインタビューから——	・・・	桐谷 多恵子 P. 42
8. 核兵器なき世界への第2ステージのはじまりか? ～核兵器禁止条約成立～	・・・	朝長 万左男 P. 47
	・・・・・・・・・・・・・・・・	新聞記事
添付資料	・・・・・・・・・・・・・・・・	核兵器禁止条約 (英文)